

日本肝胆膵外科学会高度技能医制度委員会（編）

肝胆膵高難度外科手術

川原田嘉文

日本消化器外科専門医/米国外科専門医/三重大名誉教授

2008年に「日本肝胆膵外科学会高度技能医」の資格とシステムが承認されました。トレーニングを受けるフェローにとって、最も大切なものは high volume center でのトレーニング、専門医からの指導と本人のやる気です。しかし今、日本の外科トレーニングで最も欠けているのが、標準的な手術手技のマニュアルつまり text book of technics in surgery がないことです。

一般的に大学病院の外科や high volume center の外科では、その施設独自の術式がマスターされ、それが伝承されていきます。フェローにとって大切なことは、まず解剖を頭の中に入れ、次いで一般的な高度な術式を把握することです。

少しアメリカの消化器外科のトレーニングの一部を紹介します。トレーニングを受ける施設によっても異なりますが、教官の術式はまちまちで、アメリカのレジデントは指導を受けるその教官の症例を手術させていただくのです（この形式が短期間での技術向上に非常に役立っているのです）。レジデントは教官が何を考えどの術式か、術後の抗菌薬などを、術前に把握しておかなければなりません。また術中にはいろいろな anatomy の質問、また術式に関しても、この症例では「〇〇大学の〇〇教授の方法がよいね」と尋ねられます。この時迷ってはダメです。教官

の術式を遂行しなければポイントを得られないばかりか二度と「Surgeon」としてその教官の症例にメスを入れるチャンスはありません。専門医になるには、術者として最終学年で最小限 400 例が必要です。しかし 85～95%を本人が手術をしないと、術者としてカウントされません。外国人の私達にとってそれは、とても大変なことで、アメリカのレジデントがやっているように、私も「解剖の本」と「Madden」と「Zollinger」の 2 冊の手術アトラスを用い、術前にその術式を読み、当日の朝食の前、6:00 am にパラパラと目を通し、また、手術記事を書く時には、その本を見ながらディクテーションしたものです。

日本には沢山の術式の報告や術式が雑誌に紹介されていますが、フェローに必要な手術書は見当たらないように思います。ところが最近（2010年6月）、本書が肝胆膵高難度外科手術書として発刊されました。

目次を見てみますと、Ⅰ. 肝胆膵の外科解剖、Ⅱ. 基本手技、Ⅲ. 偶発症への対処、Ⅳ. 基本手術、Ⅴ. 腹腔鏡下肝膵切除の 5 項目からなっています。

消化器外科のトレーニングの上級生、肝胆膵外科のフェローの先生方にこの本をぜひともお奨め致します。いや、指導医の先生方にも必要と思います。

まず、消化器外科のシニアレジデントの時、肝胆膵の手術の時、一読する必要があります。フェローとして、手術をさせてもらう時には、その術式を勉強し、そして手術の当日は朝食の前に野球やゴルフの“素振り”をするように、該当する項目の術式を 2～3 回目を通し、手術が終わってからもその箇所を読んで、マスターできなかったところや、気が付いたところを黄色のマジックペンでチェックをすることです。手術が終わってから手術所見、術式を書く時も、もう一度、目を通してポイントとコツを覚え、手術記事を書くことです。

この手術書が登場したことは、これからのフェローにとって、そして教官にとっても、唯一の text book になることは言うまでもありません。

老人の言葉を信じて 2 年間この本を熟読しながらトレーニングに取り組んでいただけると、あなたは立派な高度技能医になることは間違いなしです。

最後に、リラックスしながらエンジョイして下さい。

●B5/頁 324/2010 年/定価 10,500 円（本体 10,000 円+税 5%）
[ISBN978-4-260-01042-9]
医学書院 刊